

令和6年度 学校経営報告

八王子市立陶鎔小学校
校長 中野 智彦

総評

(1) 今年度の学校の状況

- ①生活指導の困難な児童が少なくない中、全ての教職員が互いに励まし合いながらこの難局に日々挑んだ。この結果、一人の病気休暇取得者・病気休職処分者を出さずに、予定の教育活動を大きな事故等無く全て実施できた。学校経営計画において、学校教育活動の成果をあげるためには『人の和をはかる』ことが大切であると述べたが、前年度に引き続いてそのことが実証される形となった。
- ②研究面では「児童が主体的に学びに向かうための望ましい支援の在り方」をテーマにして、配慮や支援を要する児童への対応力向上をもねらって取り組んだ。この結果、「支持的学級風土」を醸成する力、児童の言動に対する「何故を追求する」力が向上した。このことによる基礎的・基本的な学力に関する詳細は下記(2)－[1]－①を参照されたい。さらに、このことはいじめの未然防止にもつながった。
- ③若手教員育成や体育・英語指導力及びICT活用力向上のための校内OJTが9回行われ、本校全体として学習指導力・生活指導力が向上した。
- ④生活指導については、『規律と思いやり』を主眼に置き、「陶鎔小スタイル」に沿って指導した。さらに、指導の困難な児童が在籍する学級については、複数の大人で見守る体制を構築し、適正な学習環境の維持・向上を図るように努めた。
- ⑤今年度から、「別室登校支援員」の配置対象校となった。当該支援員のきめ細やかな児童対応により、不登校児童の増加防止や不登校児童の別室登校促進につながるなど大変有効な施策であった。令和7年度においても同事業を継実施する。
- ⑥家庭及び地域は協力的で、とりわけ学運協・PTA・おやじの会が本校を強力に支援してくださっている。特筆される取組としては、年2回実施の学運教委員と教員との懇談会やネットマナー向上に関する講習会のほか、週に2回程度の学運協委員による定期的な校内見回り・授業観察が挙げられる。これらのことが生活指導事案やいじめ事案への迅速な対応にも大きく寄与した。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

[1] 確かな学力の育成

- ①算数に重点を置き、低学年算数ではTT（時間講師）の実施、3～6学年算数は習熟度別少人数指導の基礎コースに毎時間ATを配置するなどの施策を講じてきた。特筆すべきは、学年による差はあるものの、4～6学年の第一回市学力調査（算数）において、全ての学年でA層が平均3.5パーセント増加し、基礎問題の正答率も同1回（算数）基礎問題の正答率よりも平均1.3パーセント高かった。
- ②各教科の授業において繰り返し学習を取り入れながら、朝学習や放課後の補習を定期的実施し、さらに家庭学習励行の呼びかけ、管理職による授業観察も頻繁に行い、基礎的・基本的な学力の定着に努めた。

[2] 心と体の健康づくり

- ①体力テストを6月に、持久走週間・鉄棒週間・縄跳び週間を冬季に月行い、結果を体力向上に生かせるように指導した。
- ②いじめに関する気になる事例については、直ちに校内いじめ対策委員会を行うなど、迅速な対応・解決を図った。その結果、今年度も新規に「いじめ認知報告書」を市教委に提出する事案は皆無であった。次年度以降も未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を継続できるようにする。

[3] 保護者・地域との連携

- ① 学校運営協議会の毎月開催により、教育活動や学校施設・設備等の課題に関する緻密な協議を行うことができた。これらにより、生活指導事案や保護者対応事案への迅速な解決に、学校施設・設備への必要な対応・修繕等につながった。
- ② おやじの会が中心となり、運動会への支援と児童・保護者向け行事を計7回実施した。これらのうちの2回は、スマホやネットゲームなどの利用マナー向上に関するもので、新たなセーフティ教室として来年度以降も実施する。
- ③ 児童発達支援施設等による「保育所等訪問支援」については、学運協会長が立会いのもと、本校の児童に係る複数の当該施設のスタッフの中から、本校との連絡・取りまとめ役を1名選出し、当面は年に4回統一的に「保育所等訪問支援」を実施する形にした。当該施設が個々に来校することによる混乱を避けることができた。

(3) 次年度に向けた課題及び解決の方向性

[1] 確かな学力の育成

- ① 引き続き『支持的学級風土を基盤とした学級力向上』を中軸に据え、安心して発言・発表・表現ができる学級集団づくりを通して学力の向上を図る。
- ② 今後も家庭と連携を図りながら基礎的学力の定着に努めるとともに、低学年算数ではT T（時間講師）の実施、3～6学年算数は習熟度別少人数指導、及び可能な範囲で教科担任制を推進するなど、より丁寧な指導や専門性の高い指導を行う。
- ③ 小中一貫教育研究については、教科・領域別に小中共通の実践事項について成果を明らかにした。例えば国語の漢字書き取り力や作文力の向上が見られ、都立高校入試に向けての確かな基礎的学力の向上が見られた。今後も実践事例の蓄積を行う。

[2] 心と体の健康づくり

- ① 道徳教育の充実をはじめ、全ての教育活動を通して、思いやりのある子の育成と思いやりのある言語環境づくりに努める。S C及びS S Wの活用により不登校児童数の減少を図る。悩みを抱える児童・保護者がS Cに相談しやすい環境を提供する。
- ② 持久走週間の実施等で体力向上に努めたが、体力テストでは柔軟性・敏捷性と遠投に課題が残った。体育の授業改善を図るほか、持久走週間など意欲的に体力向上に取り組める機会を設定したり外遊びを奨励したりする。
- ③ 指導の困難な児童が在籍する学級については、適正な学習環境の維持・向上を図る観点から、複数の大人で見守る体制を継続するとともに、当該児童・家庭を対象とした関係者（ケース）会議の実施を検討していく。

[3] 特別支援教育の推進

- ① のぞみ学級と各学年との交流学习をもち、通常級の児童への理解学習を推進する。また、八王子西特別支援学校の児童との副籍交流を継続実施する。
- ② 都巡回心理士やS S Wを介してW I S Cの実施や医療との連携ができ、当該児童を特別支援教室や特別支援学級に円滑につなぐことができた。次年度もこの形を継続していく。

[4] 保護者や地域との連携

- ① 学運協と学校運営上の重要施策（学校経営方針、地域との調整が必要な施策、生活指導や保護者対応の困難事案等）を協議するとともに、協働して対処していく。
- ② 放課後こども教室（毎日開催）の雨天時校舎内開催を今年度から開始、来年度も継続実施するほか、登校時刻前の開催もできるよう検討を行い、令和7年度内開催を目指す。この他、サタコミ（各種スポーツや和太鼓、英会話）、地域資源と連携した「あそびじゅつかん」等を年8回開催、来年度も継続実施する。
- ③ 保幼小連携を強固に推進し、園児と本校児童との交流活動や当該施設職員と本校職員との交流も年に複数回実施するとともに、「スタートカリキュラム試案」の作成に向けた検討を始めるなど、保幼から小の滑らかな接続に資するようにする。

学校経営報告〔数値目標や達成時期目標〕

(令和7年度の学校経営計画では項目の精選を図る)

	数値項目の目標	令和6年度の現状	令和7年度目標
地域運営学校	・保護者理解度 ・委員の協議会出席率 ・委員の学校行事参加 ・委員の学校公開参加 ・学校運営協議会回数 ・提案	97% 90% 100% 100% 11回 キュービクル更新工事竣工、倒木対策のための樹木伐採への同意、懇談会等	100% 90% 100% 100% 11回以上 危険樹木の伐採、講演会、懇談会等の活動2回以上
学力向上	・授業時数 ・朝10分読書漢字計算 ・少人数指導 ・複数教員による指導 ・到達目標値の向上 ・校内研究	余剰時数18時間程度(全学年) 85%以上実施 基礎問題正答率20%未満が大幅な減少 低学年も3学級4名体制(算数) 到達目標問題正答率50%未満の児童10%強までに減少。 学級力向上のための実践的な研究の推進、及び評価の研究	余剰時数18時間程度(全学年) 95%実施 同左児童5名未満 同左継続実施 到達目標問題正答率50%未満の児童10%未満にする。 引き続き学級力向上のための実践的研究を推進する。
安心安全健康	・不登校 ・いじめ ・安全教育 ・地域学習協力者 ・安全ボランティア	年間90日以上欠席者9名 認知報告書新規提出案件ゼロ 交通事故等1件 26名 10名	同左児童6名未満を目指す 同左件数ゼロの維持を目指す 交通事故等0件 26名 10名
学校運営	・事案決定 ・学校だより ・学年だより ・学校評価 ・週案 ・小中一貫教育の推進 ・保幼小との連携	緊急以外90%事前決済 年12回 全学年11回(月1回)以上 A評価の向上、CD評価の減少 全員毎回提出も遅れあり 年3回の分科会、部活動・授業体験 最寄保育園及び幼稚園との連携実施	緊急以外100%事前決済 年12回 全学年11回(月1回)以上 絶対評価値の向上と学校改善 全員毎月曜日提出、内容の改善 同左 同左
特色ある活動	・食農育 ・老人ホームとの交流 ・地域教育力の導入 ・インターシップ・ボランティア ・食育の推進 ・薬物乱用防止教育	全学年で実施 職員の来校という形で実施 地域協力者の開拓 7名 栄養士と全学年が連携、年1回 3・6学年(年1回)	全学年で実施 訪問内容を検討(竹の里・小松原園) 人材バンクの充実 7名以上 栄養士と全学年が連携、年1回以上 3・6学年(年1回)
家庭地域との連携	・保護者会 ・授業参観 ・道徳授業地区公開講座 ・地域行事への参加 ・サタデイコミュニティ ・おやじの会、犬目町会と連携 ・学校評価	出席率50% 参観率75% 意見交流会50名参加 教員の参加者のべ26名 年8回開催、 保護者参加総計350名 A・B評価全項目平均75%	出席率60%以上 参加率80%以上 意見交換会50名以上 令和6年度と同程度の参加 令和6年度と同程度開催 令和6年度と同程度の参加 A・B評価全項目平均75%超